

第54回東海学術大会愛知大会



11月17日(日)午前10時から16時00分まで、ウインクあいちにて、第54回東海学術大会 愛知大会が開催され、本会から163名(セミナー103名)、静岡県から35名(セミナー28名)、三重県から32名(セミナー18名)、岐阜県柔道整復師会から54名(セミナー18名)、学生、一般県民等を含め総勢625名が参加した。

藤川 和秀副会長の開会の辞の後、公益社団法人日本柔道整復師会の工藤 鉄男大会会長が挨拶され、続いて森川 伸治大会実行委員長が挨拶された。

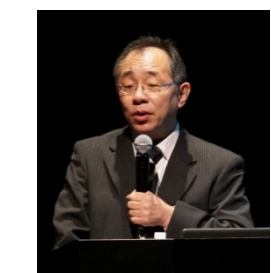


開会式ののち、10時30分から12時まで大ホールにて、特別公演(第13回県民公開講座)が開催され、『おもてに見えないスポーツの安全対策』—柔道大会や活動を安全に運営する取り組みと期待—と題し、東海大学体育学部武道学科 教授宮崎誠司先生が講演された。



13時から同会場にて、8題の会員研究発表があり、本会からは、和家博明会員(笠寺)が、「長期化した足底腱膜損傷に対する足底板装具療法の有効性について」と題して発表した。

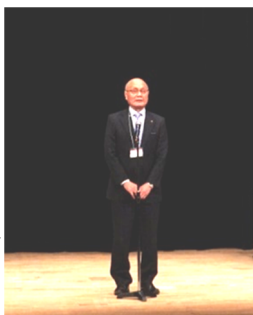
長期に亘って踵部の強い歩行痛や骨棘を伴った患者に対して、オルフィットのハードを使用した自作足底装具の作成過程から、装着法の解説もした。通常ならば、シリコン素材等の軟らかい素材の物を使用することが多いが、今回のように硬質素材で足底から側面まで履物のように、足全体を覆い、足にフィットさせ、尚且つ骨棘などの圧痛部分に穴を開けることで、直接圧力が加わらない様にして、装具の有用性を述べた。



14時30分より同会場にて、日整介護セミナーとして、「柔道整復師の地域包括ケアシステムへの関わり方〜2019 新たな地域貢献への挑戦〜」と題して、日整特別諮問委員の三谷誉先生が講演された。

13時30分から15時までB会場の小ホールでは学生による5題の口頭発表があり、15時半からは発表された会員、学生の表彰式があり、16時には次回の主管県である岐阜県の鹿野道郎会長(東海ブロック会会長)の閉会の辞をもって全ての行程が終了した。

なお次回は東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、2年後の令和3年の開催となる。



武豊町防災訓練



10月27日(日)、武豊町の緑丘小学校にて、武豊町役場と消防署、自治区の方々による防災訓練がおこなわれた。

石川益郎事業部長・松田吉弘支部長・石川真会員・森正仁会員・桑子和也会員・樋渡啓祐の6名で活動した。

「エコノミー症候群を予防しましょう」「災害時に身の回りにあるもので応急処置をしましょう」と、日ごろの技術や経験を活かして各会員が、やさしくわかりやすく説明しながら一緒に体操をして、レジ袋を使つての三角巾固定の代用の仕方や、ペットボトルを使つての副木固定の応用などを、100名近くの方々に体験していただき大変ご好評をいただいた。(事業部 樋渡啓祐)

尾張旭市防災訓練

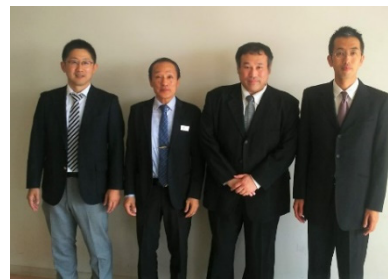


10月27日(日)尾張旭市立瑞鳳小学校にて「令和元年度尾張旭市防災訓練」が行われた。瀬戸・尾張旭市地区から3名と大口大曾根支部長の4名で参加した。今回の訓練

は約600名、40を超える各種団体の参加で盛大に行われた。

我々のブースでは、約40名の来場者にエコノミークラス症候群についての知識と対処法を指導し、柔道整復師ならではの災害時の色々な対処法も実演・説明をして柔道整復師の有用性をアピールした。(大曾根支部 中島竜児)

第91回中村支部学術研修会



10月27日(日)に清須市のにしびさわやかプラザにおいて、第91回中村支部学術研修会が開催され、当日は約30名の当支部会員と他支部学術部の方が参加した。

研修会の一題目「少しでもかじってみよう栄養療法のこと」では、運動療法を高齢者に指導する際、柔整的な視点だけではなく栄養の問題にも触れることが大切であることを、二題目の「手指狭窄性腱鞘炎(ばね指)について」では解剖、病態、治療法について詳細に報告され、多くの固定法や手技療法などの紹介もあり、明日の業務にすぐ応用できるような大変有意義な内容の研修会が行われた。(中村支部 半谷和男)

年末年始事務所のお休み
令和元年12月28日(土)より令和2年1月5日(日)
療養費支給申請書提出は、令和2年1月6日(月)の、この日のみとさせていただきます。ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。郵送も6日必着でお願いします。